

長野県 公運協だより

第 151 号

発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里 1-1-4
県立長野図書館内
電話 (026) 217 - 6256
FAX (026) 217 - 7015

「Withコロナ」、そして、 「Afterコロナ」へ

長野県公民館運営協議会

会長 山田賢一



令和四年
度会長の山
田と申しま
す。浅学非
才の身では
ございます

が、皆様にお支えいただき務めさ
せていただきましたと思えます。何
卒よろしくお願いたします。

コロナ禍が始まって二年半が経
過しました。変異株に翻弄された
日々が続く、ずいぶん感染状況に
落ち着きが見られてきた矢先、第
7波が猛威を振るい始めました。
今後、先が見えない中にあり予断
を許さない状況ではありますが、

ワクチン接種などで重症化リスク
の低下や、ウイルスの正しい知識
の広がり、過剰な不安がなくなり、
ある程度のリスクを許容しながら
感染防止対策に努め、社会全体に
動きがみられるようになってきて
います。

さて、公民館活動に目を移しま
すと、私たち公民館関係者は、コ
ロナ禍を経験することによって、
改めて公民館活動の大切さを考え
直す大きなターニングポイントで
あることに気づかされました。な
げなら、今まで何不自由なく当た
り前に行われていた公民館活動の
ありがたさを知ることができたか

らであります。そして、活動の困
難な中で、いかに公民館としての
役割を継続していくのか四苦八苦
しながら、関係者が知恵を絞って
熟議してきました。今となっては
公民館職員の良き対人コミュニ
ケーションの場となっています。

かたや一方では、単にコロナ禍
以前の日常に戻るのではなく、
「不易」と「流行」の精神を大切
にするともに、これを機会に形
骸化やマンネリ化した事業や形態
を吟味し、そして「チャンス」と
捉え、新しい生活様式（新しい公
民館活動）の構築に向けて先進さ
せていかなければならないと言
うことではないでしょうか。

今後、ウィズコロナを踏まえつ
つアフターコロナを見据え、住民
の方々が暮らしの質を高め、住み
良い地域づくり、また、心豊かな
人づくりや、つながりづくりのた
めの一助となるよう、公民館職員
として日々研鑽を積んでいきたい
ものであります。

最後になりましたが、今年度の
公民館大会は、上田市・東信地区
公運協の皆さんにお世話になり、
三年ぶりに集っての開催となりま
すことを切に願ってやみません。

令和四年度長野県公民館 館長総会並びに研修会

高山村公民館
館長 黒岩龍也

新型コロナウイルス変異株の流
行から全県感染レベル5となり、
五月十一日（水）に予定されてい
た「令和四年度長野県公民館長総
会並びに研修会」のうち、総会は
書面開催とし、研修会は、須坂市
生涯学習センターをメイン会場に
したオンラインでの開催となりました。

新たな試みとしてオンラインで
県下の公民館が繋がることができ
たことは、公民館活動の中の大切
な「つどう」の新たな姿として大
きな成果だと思えます。

当日は、研修会に先駆けて開催
地を代表し須坂市長三木正夫氏よ
り、これからの公民館活動に期待
することについてご挨拶いただき
ました。

研修会は時間短縮されて基調講
演と事例発表を行いました。基調
講演では、信州高山村観光協会事
務局次長の涌井俊広氏より「選択
の時代における発想の転換」より

ダーに必要な発想・視点・考え方」と題して、日本生命保険相互会社調査役としてのご経験から、公民館運営をするにあたってのヒントをたくさんいただきました。



事例発表では、「Withコロナ、そしてAfterコロナにおける公民館活動の新たな試みや課題」について、代表の四館より紹介いただきました。

コロナ禍にあって、これからの公民館活動をより良いものにするためには、公民館長として率先して動くこと、地域へ積極的に飛び出して住民とコミュニケーションを図ること、常に新しい発想を追い求めることが大事であることなどを確認することができました。依然として先の見通しが見えない中ではありますが、これからの新たな公民館活動の実現に向けて背中を強く押された実り多い研修会でした。

リレーコラム

「長野県らしい公民館とは？」 ⑧

伝統芸能の継承

大鹿村公民館

館長 丸山 稔

村には古くから伝わる歌舞伎があり、村外の皆さんにも「大鹿歌舞伎」として広く親しまれています。

江戸時代から続くこの村歌舞伎は、一時期江戸幕府の命により全国的に歌舞伎の上演が禁止となり、途絶えざるをえない状況に置かれました。しかし、神社への奉納歌舞伎ということで途切れることなく現在まで続いています。

私自身も二十代の頃、何回か役者を経験させてもらいました。ある時、地元の神社の奉納歌舞伎のときに、友人たちが何人かで見物に来てくれました。私が花道から出たとたん、友人の一人が「引っ込め」とか「大根役者」とかふざけて声をかけてきました。私はすかさず手にしていた十手で友人の頭を花道の上から軽く叩き、会場からは大きな笑いが起きました。

しかし、上演後指導者の方から「丸山、どんなことがあってもお客様を叩いてはだめだ」と厳しく叱られてしまいました。そんなことがあり、その後は役者としては声がかからなくなってしまうました。

さて、ここからはこの歌舞伎の伝承についてお話しします。昭和五十年に大鹿中学校で「歌舞伎クラブ」が発足し、何年前からは全校生徒を対象とした授業として取り組んでいます。過疎化が進み生徒数が減少していますが、先生方のご理解ご協力の下、



毎年秋に開催される文化祭「大鹿祭」で盛大に発表が行われています。



小学校では、平成十七年から四年生を対象として、毎年三月に公民館で開催している「若者歌舞伎発表会」の中で発表しています。

今、村にいる若い人たちも子ども頃から歌舞伎に関わっていて、役者だけでなく公演時の道具、裏方等でも活躍してくれています。

この継承、伝承が文部科学省で評価され、平成八年に「国選採無形文化財」に、平成二十九年には「国の無形文化財」に指定されました。

この大鹿村の文化を今後も大事に守っていきたくと考えます。

県教委より

「様々な世代の交流が
生まれる公民館活動」

(長野県教育委員会から)

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策を十分に取しながら定例総会が参集形式で開催される等、公民館活動に各地でお取り組みいただいていることに、改めて感謝申し上げます。

四月には、長野県立大学ソーシャルイノベーションセンターと連携し、長野県公民館運営協議会のご協力のもと、地域活動に関心がある大学生と、公民館関係者との情報交換会を開催しました。多くの公民館職員の皆様にご参加いただき、ありがとうございます。

また、佐久大学では、地域で活躍する人材育成のため、地域の公民館の協力を得て、住民活動に参加する講座が開催されています。

「Afterコロナ」を見据え、若者と共に数十年後の未来を思い描き、様々な世代の交流が生まれる持続可能な公民館活動が県内で行われ始めていることを踏まえながら、今後の生涯学習・社会教育

施策を検討してまいります。

(文化財・生涯学習課)

指導主事 楠 武明

ブロックニュース 中信

コロナ禍で

できることを探して

大人の遠足

山形村公民館

主事 宮本真彦

コロナ禍において、山形村公民館でも、イベントや講座が中止になる状況が続いていました。

こうした状況の中でできる事業を考え、少人数でアウトドアならばということ、山形村の最高地点(てっぺん)を目指すトレッキングを企画しました。題して「大人の遠足」。

募集の段階では、人が集まらないのではないかと不安もありましたが、定員十名に対し六名の参加申し込みがあり、公民館長や担当職員も合わせ、総勢十一名で、山形村のてっぺんを目指しました。あいにくの曇天で、眺望は楽しめませんでした。参加者からは、

「次の機会があればまた参加したい」、「一人ではなかなか来る機会がないので、参加してよかった」といった声が聞かれました。

山形村では、コロナ禍をきっかけに、これまでの事業を見直すという声や、コロナ禍でもできる活動をやっていこうという声など、公民館の在り方について、様々な意見が寄せられています。山形村公民館としても、こうした声を聴きながら、ウィズコロナ、アフターコロナの活動を模索して行きます。

ここに生きる

生きがいを求めて

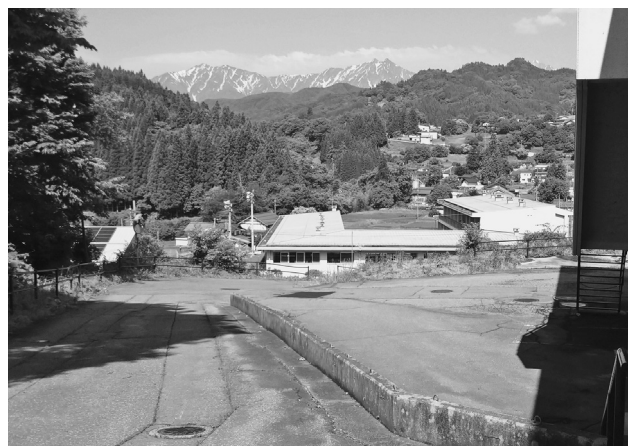
小川村公民館

係長 古林一房



小川村は六十五歳以上の高齢者が四割以上を占める人口二千三百人

程の小さな村です。小川村公民館は、役場正面の坂を上った小高い



山の上で、利用者にはちよつときついが、ここから眺める北アルプスでちよつとした気持ちとを和ませてください。

コロナ禍により活動範囲は自粛され、生活環境が一変。人と接する場が減り、マスク着用での生活で、私たちの感覚機能の五感(視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚)が鈍っています。

取り戻す方法として、私自身、日の出前の草刈りでちよつと汗を流すことがあります。朝一番の冷たい空気を体に取り込んだとき、鈍った感覚がリセットされ、自然の中で生かされ小さな存在だなど

感じることがあります。これには個人差がありますが、先人達が残した自然とのかかわり方の楽しさを再確認し、五感を活性化させたかと考えます。村生まれの年配者は人生経験が豊富で地域での文化伝承者であるが、継承者が少ない。逆に定年退職・第二のライフワーク、また子育てなど村外からの移住者達のこだわりスタイルでは地域と交わらない部分を感じることはありません。今回コロナ禍により世代間交流との継承と地域共同体の行事等への活動には公民館での学びの交流が必要と感じました。この四月に異動したばかり、利用者の笑顔を求め頑張ります。

新型コロナ禍の 公民館活動

上田市中央公民館

館長 星野陽一

四月の人事異動に伴い上田市中
央公民館長として就任しました。

就任当初は、上田圏域における
県の新型コロナウイルス感染症の
感染警戒レベルが5と高水準が続
く中、貸館事業は継続しつつも、
公民館主催の講座や事業は、中止

や延期を余儀なくされるなど、厳しい状況が続いておりました。そうした中、県内他市や近隣の公民館の活動状況をお聞きする中で、感染警戒レベルが高い状況下においても、感染対策を徹底した上での公民館活動を模索しておりました。

去る五月二十三日には、県による感染警戒レベルの基準の見直しが行われ、上田圏域の感染警戒レベルが3と引き下げられたことから、広いスペースの確保や参加者数の縮小などの感染対策を取ったうえで、公民館主催の講座等を再開しております。

講座再開の際は、参加者から喜びの声を多々お寄せいただき、利用者の安全・安心確保に向けて心を新たにしました。

公運協だより 編集委員のつぶやき

富士見町公民館主事 入江由布子

新型コロナウイルスが世界で流行し始めて、三年近くが経過しました。その間、「第〇波…」を何度も経験し、それでも皆さん前に進んでいこうとしているかと思えます。

富士見町公民館分館の乙事公民館には、江戸時代の疫病への対応方法が書かれた古文書が残されています。

これによると、宝暦十三年（一七六三）乙事村から諏訪の高島藩へ、疫病の対策方法について報告がされています。全五項で構成され、疫病について様々なことが取り決められていました。全文は長いため省略しますが、むやみに他との者と交わらない等、現代のコロナ対策に通ずる内容でした。第一

項に書かれている「看病や田畑の世話については、親類はもちろん隣家も手伝い、親類などがない場合は村中で協力して支援する。」としています。この頃でも、村人一丸となつて困難な状況に立ち向かっていったと感じました。

現代でも、まだまだ困難な状況が続いています。知恵と工夫とマッパワで乗り切っていきましょう！

詳しくはふじみ町公民館報7月号に掲載しています。興味のある方はぜひご覧ください。

令和4年度 長野県公民館運営協議会役職員名簿

住 所	〒380-0928 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内	
電 話 番 号	026-217-6256	
F A X 番 号	026-217-7015	
メールアドレス	kounkyo@mxl.avis.ne.jp	
ホームページ	https://naganoken-kounkyo.com/	
役 職 名	氏 名	所 属
顧 問 会	柏澤由紀一	松本市芳川公民館長
	山田 賢一	安曇野市堀金公民館長
副 会 長	櫻井 貞文	松本市今井公民館長
	原澤 利明	東御市中央公民館長
	北村 享一	富士見町公民館長
	高野 豊	長野市立朝陽公民館長
	渋澤 二郎	長野市立豊野公民館長
理 事	星野 陽一	上田市中央公民館長
	百瀬 純雄	山形村公民館長
	市澤 和宏	豊丘村公民館長
	松本 貴秀	小川村公民館長
	土屋 明美	小諸市公民館主任
	渡邊 宏太	白馬村公民館主事
	本田 留美	宮田村公民館主事
	田中 秀紀	坂城町公民館主査
	新井 存	長野市柳原交流センター係長
	浅井 勇太	松本市島立公民館主任
	三ツ井洋樹	飯田市公民館主事
	監 事	芳原 毅彦
入江由布子		富士見町公民館主事
事 務 局	木下 陽介	事務局長
	筒井美保子	アドバイザー
	竹内美津江	事務局員